

武蔵野

被爆者の声を 心に残したい

原爆が投下された長崎市を八月に訪れ、平和祈念式典に出席し全国から集まる若者と交流する「武蔵野市青少年平和交流派遣団」の結団式が十日、市役所であった。戦後七十年の夏、十代の若者たちはこの体験を通じて戦争と平和について何を感じ考えていくのか。参加する市内の中高生八人が思いを述べた。

(竹島勇)

派遣団は、終戦から七十年にあたり、若い世代に戦争の悲惨さと平和の尊さを



ナガサキへ 武蔵野の 10代

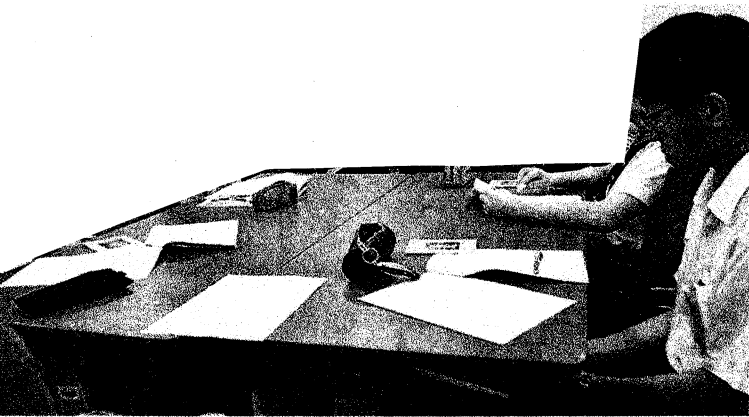
平和記念像原型
(井の頭自然文化園)

学び考えてもらうことを目的に市が実施する。団員は中学一年生から高校三年生までの男子三人、女子五人の八人。市が長崎市に中高生を派遣するのは二〇一二年度に続き二度目。結団式で、それぞれが自己紹介。小学二年から六年まで米カリフォルニア州に住んでいた時の体験が参加のきっかけという成蹊高三年の新井梨夏さん(一七)は「米国の友だちに日本のことを聞かれたのに答えられず、自分は日本のことをよ

く知らないと感じた。だから長崎に行って戦争で何があったのかを知りたい」と話した。

8月平和祈念式典 派遣の8人結団式

グループに分かれて調べる内容を話し合うメンバーいずれも武蔵野市役所で



海城中三年の小此鬼涼君(一七)は「最近、戦後七十年とよく聞か(自分が)よく戦争を分かっていると思(う)。ぼくたちは体験者の声を聞くことができる最後の世代かもしれない。一生懸命学びたい」と話した。邑上守正市長は「武蔵野市も被害のあった七十年前の戦争と原爆。あれを最後にした。そのためにいろいろ学んでほしい」と激励

した。中学一年生は別々の学校から三人が参加。市立第一中一年の塩沢真理さん(一三)は結団式の後、「緊張しましたが、年上の人が優しく接してくれて少しほっとしました」。塩沢さんの三歳年上の姉が前回参加したといい、「原爆の体験をした人の話をじかに聞くことができてとても心に残ったと姉から聞いていたので、私



平成27年度
武蔵野市青少年平和交流派遣団 結団式

結団式で邑上守正市長(中央)
二(前列左から)小此鬼涼君

も参加してみたかった」と話した。結団式を終えた八人は、二グループに分かれて、長崎市や原爆について調べる内容などを話し合っていた。八人は書類審査と面接で選ばれた。参加費は一人二万五千元。被爆体験者の話や武蔵野市周辺の空襲被害などの事前学習を重ね、八月八〜十日まで長崎市を訪れる。長崎の平和祈念像は彫刻家の北村西望が武蔵野市にある都井の頭自然文化園内で制作したといい、そのゆかりもあって長崎市に派遣する。